

# 地域環境を生かした ブライダルツーリズムの可能性について

国際文化学研究科国際文化学専攻 辻本梨紗

## 1. 研究動機

結婚式とは本来親族や近所の人を招き、家と家そして地域との繋がりを大切にする行事であった。しかしながら、近年の結婚式は、新郎新婦の見せ場づくりに重きが置かれる傾向にあり、さらにリゾート婚やナシ婚といった多様な結婚式が模索されている。筆者は結婚式場でウエディングプランナーとして働いていた経験をもち、近所の人々や環境を生かした結婚式のプランを作成したいと思うようになった。

本研究において、「リゾート地・観光地における挙式やその他『ブライダルを』想起させる旅を『ブライダルツーリズム』と仮定し定義化<sup>1)</sup>をした。

## 2. 研究方法

本研究の調査方法は、文献調査とインタビュー調査が中心である。結婚式に所縁のある地域を訪問(萩市佐々並地域・周南市鹿野地域二所山田神社)し、結婚式の歴史、文化的な価値や背景の分析を行う。そして観光まちづくりの一領域である「結婚式を軸としたツーリズム」促進のため、来訪者と地域住民間の交流をどのように成立させることができるか、その可能性や課題点について調査・分析をする。

また、地域環境を生かした結婚式のプランを作成することで、「ブライダルツーリズムの確立」に繋がることを明らかにする。その際に従来とは異なるアプローチかつ地域との関わりができ、新たに地域の魅力を創出できるかを考察する。

## 3. 佐々並地域における地蔵婚の事例

萩市の佐々並地域では明治時代から「地蔵婚」が行われている。「地蔵婚」とは、披露宴が家で行われている間に、地元の男性が化粧を施した地蔵を新婦の家に持っていく結婚式の様式である。

地蔵婚は萩市の佐々並地域だけではなく、昭和24、5年頃までは島根県や萩市の諸島部でも行われていた

が、現在行われているのは佐々並地域のみである。そこで筆者は、なぜ佐々並地域は地蔵婚を守ろうとしているのか、「佐々並地域どうしんてやろう会」会長の林壯助氏に2020年8月1日、11月27日にインタビューを行った。

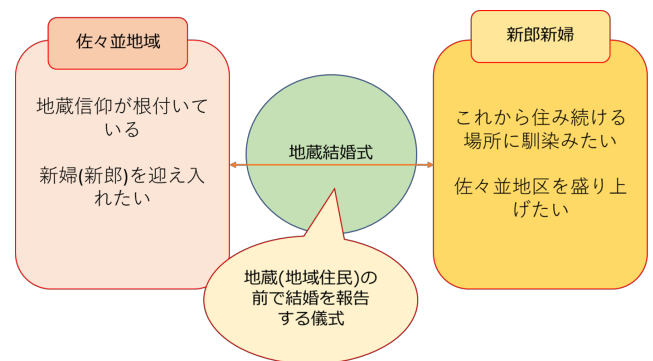
林氏によると、佐々並地域は古くから地蔵信仰が根付いており、地域住民と地蔵は近い存在であった。林氏が結婚式を行った45年前には「尻かけ地蔵」が運ばれて来たそうだ。他所から来たお嫁さんの座りが良いようにとの願いが込めて地蔵婚を行った。

しかしバブル期になると、西洋の結婚式が主流化し、加えて婚礼人口の減少に伴い、次第に佐々並地域から地蔵婚が減少した。現在、地蔵婚を残すために「どうしんてやろう会」は、SNSでの情報発信や2019年11月25日には、模擬結婚式を行い地蔵婚の魅力を後世に伝える活動を行っている。

「以前は、地蔵婚をすることで地域住民の繋がりができていた」と林氏は話していた。

今後も地域参加型の地蔵婚の計画があるそうだ。

林氏にインタビューを終えて、地蔵婚には地域の活性化の役割があると感じた。



図：地域住民・新郎新婦における地蔵婚の関わり

さらに佐々並地域は、持続可能な地域を目指す「佐々並夢プラン」を作成している。そのなかに『地域の歴史、伝統、文化を大事にし、地域の良さを発信しよう』という項目があり、地蔵婚を観光資源として活用することで、この項目を達成できる可能性がある。

地蔵婚は地域の人との連携方法やご祝儀の受け渡しなど、いくつか問題はある。しかし、「珍しさ」や「温かさ」を感じ、将来を誓える結婚式は今後のブライダルツーリズムの確立に大きな可能性をもたらすと考える。さらにそれらを踏まえて筆者は地蔵婚プランの提案を行った。「今まで以上に、佐々並に若い層が来て活性化に繋がることを期待する」と林氏は言っていた。



写真：尻かけ地蔵と林氏

## 4. 神前結婚式発祥地の調査

周南市鹿野地域にある二所山田神社は、明治40年（1907年）に、二所神社と山田神社を合祀して、社号を二所山田神社と改めた。そして明治41年（1908年）当時の宮司宮本重胤が一般家庭向けに、結婚の意義、結納、見合いを含め説いた『神前結婚式』なる冊子を刊行した。更に式の詳細を記したマニュアル本『神前結婚式大全』を編集、全国に販売した。冊子・マニュアル本は数十万部の大ヒットとなり、全国に神前結婚式が広まるきっかけになった。

現任職の宮本史胤氏にインタビューを行い、実際に『神前結婚式大全』を拝見した。

当時の住職宮本重胤は『女子道』という機関誌を作成するなど男女平等に注力し、その際に神前結婚式の普及も行った。その影響で鹿野地域は神社の収入も含め、家庭内での男女平等の役割も担っていたと宮本氏は話していた。

そもそも鹿野地域の神前結婚式のマニュアル本の存在をウエディングプランナーは全く知らない。結婚式場の幹旋事業会社、カリヨンのチーフ山本愛氏は「人気がある防府天満宮や山口大神宮で神前結婚式を行う際、カリヨンのスタッフは『場所』や『有名度』で案内している」と言っていた。しかし、神社を案内

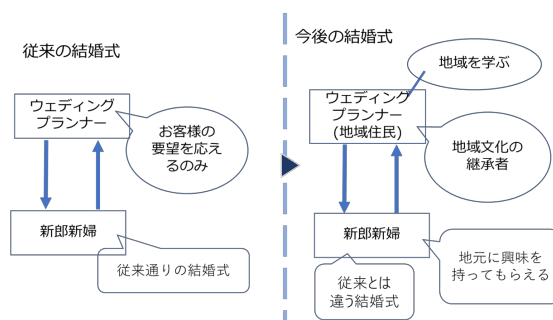
する際に一言マニュアル本の話や宮本重胤の話があれば神前結婚式を行う価値がさらに高くなるのではないだろうか。



写真：神前結婚式大全と鹿野で制作しているおみくじ  
(撮影：岡村春奈)

## 5. 成果と今後の展望

本研究において、地域環境を生かした「ブライダルツーリズム」モデルの確立は、地域社会にとっても、ウエディングプランナーにとっても需要があることが明らかになった。地域環境を生かした結婚式のプラン作成は地域のプロモーションとなる。今後の結婚式において、地域に根付いているものを生かし祝うことでウエディングプランナーも文化の継承者になり得ることが、本研究を通して明らかになった。



図：ウエディングプランナーを地域文化の継承者として表した  
(筆者作成)

地域環境を生かした「ブライダルツーリズム」モデルの確立は、地域社会やブライダル、ツーリズムにとって、これまでにない意義「地域住民の繋がり」「温かさ」を得ることが期待している。

今後の展望としては、現役のウエディングプランナー達が、各地の特色ある婚礼文化を学び、本研究で得られたブライダルツーリズムモデルを十分に活用できるように、研修の機会などを設けることが有効ではないかと考えている。

# 中国人留学生および卒業生に対する 就職支援の効果 —山口県の事例研究—

国際文化学研究科 国際文化学専攻 王 曾芝

## 1. 研究背景

(1) 2019年の山口県は**少子高齢化3位**で特に**労働人口が減少**（令和2年版高齢社会白書 2020）

(2) 2020年の留学生の就職先は東京が**13763人（44.5%）**，山口県が**78人（0.3%）**のみ（出入国在留管理庁 2020）

(3) 2016年の日本企業の中国進出は東京が**4743社（34.0%）**，山口県が**52社（0.4%）**のみ（TDB 2016）

## 2. 研究目的

山口県における中国人留学生が県内企業ではなく、大都市圏を目指し就職するのか原因を分析し、中国人留学生のキャリア教育や就職に効果的な点を抽出し、山口県のような地方でも留学生への就職支援の取り組みをさらに強化する必要性を明らかにする。

## 3. 研究方法

(1) 2019年から2020年まで山口しごとセンターによる留学生への就職支援の取り組みについて現地調査を行い、他の都道府県の先行研究と比較する。

(2) 山口しごとセンターと協力して、山口県の大学に在籍している留学生に対して2019年と2020年にアンケート調査を行い、中国人留学生と他の留学生の調査結果を比較しながら、効果的な就職支援の方法を検討する。

(3) 2010年度から2019年度までに山口県の大学を卒業した中国人に対して2020年にアンケート調査を行い、県内で就職した者と県外、母国で就職した者の違いを比較する。

## 4. 調査結果

(1) 行政の留学生に対する就職支援

①山口しごとセンターの留学生への就職支援

・就職情報のチラシ・メール提供、留学生と企業経営者との交流会、留学生向けハンドブック

②他の都道府県での特色のある留学生支援

表1 地元企業へ就職のための特徴的な取り組み

都道府県	内容	出典
山形県 (もっとみらい コンソーシアム)	県内企業に就職 希望の留学生へ 奨学金を提供	綾部 (2015)
広島県 (広島県留生活躍 支援センター)	留学生の採用を 検討する企業へ の啓発セミナー	尾本 (2019)
福岡県 (福岡新卒応援 ハローワーク)	中国語の通訳 配置	福岡新卒応援 ハローワーク HP

・山口県でも取り組むべきではないか。

(2) 山口県の留学生の就職およびその支援に関するウェブアンケート

調査対象：学部3，4年生と大学院生

表2 調査回答者の基本状況 (人)

	2019		2020	
回答者	中国27	他20	中国50	他31
学部	文21 理6	文7 理13	文30 理20	文14 理16
学年	学部生9 院生18	学部生9 院生11	学部生17 院生33	学部生22 院生9
日本語	N2以上27 N3以下0	N2以上10 N3以下10	N2以上43 N3以下7	N2以上22 N3以下9

表3 卒業（修了）後の希望進路 (%)

	2019年		2020年	
	中国人	他	中国人	他
日本で就職	63	55	50	77
母国で就職	18	20	28	10
日本で進学	15	15	18	6.5
その他	4	10	4	6.5

・日本で就職を希望した留学生は多い。

・母国で就職を希望した中国留学生は増加。**コロナ渦**で一人っ子が多い中国人は帰国を考えていると推測される。

表4 所属大学と山口しごとセンターの利用状況

(複数回答) (2020年のみ) (%)

	大学		山口しごとセンター	
	中国人	他	中国人	他
合同企業説明会	13	7	12	7
企業と留学生が直接話せる交流会	10	5	10	10
留学生を求人している企業の情報	13	13	12	12
履歴書・エントリーシートの添削	7	13	4	2
面接の指導	6	8	4	5
先輩の体験談などのセミナー	5	7	5	0
インターンシップの情報	7	8	5	0
企業訪問・見学の情報	4	0	4	7
ビジネス日本語教育	2	8	2	0
在留資格(就労ビザ)や社会的な手続き	4	5	3	2
利用しない	30	24	37	51
その他	0	2	1	2

・中国人は日本語能力が高いので、他の留学生より履歴書、エントリーシート、日本語教育の支援を必要としていない。

・大学より山口しごとセンターの利用者は少ないが、中国人は他の留学生より多い。

(3) 山口県の中国人卒業生の就職およびその支援に関するウェブアンケート

調査対象者：山口県内の大学を卒業した2010年度から2019年度までの中国人卒業生

表5 調査回答者の基本状況 (人)

	山口県内	山口県外	中国
回答者	29	26	26
学部	文23 理4 他2	文21 理4 他1	文20 理6
学年	学士15 修士9 博士2 他3	学士10 修士13 博士1 他2	学士15 修士9 博士1 他1
日本語	N2以上26 N3以下3	N2以上23 N3以下3	N2以上23 N3以下3

表6 インターンシップの経験 (%)

	山口県内	山口県外	中国
山口県	72	7	14
東京、大阪、名古屋等の大都市	12	6	3
福岡、広島等の近くの都市	4	4	5
その他	0	1	1

・山口県で就職した卒業生は山口県でインターンシップをした経験が高い。

表7 就職先の見つけ方 (複数回答) (%)

	山口県内	山口県外	中国
先輩・知人の紹介	38	19	28
大学の情報提供	24	29	16
行政(山口しごとセンター等)の情報提供	14	12	6
人材紹介会社の情報提供	19	36	38
その他	5	5	13

・山口県で就職すると奨学金がもらえる制度があれば、山口県で留学生の就職者数は増えるかもしれない。

表8 就活時にあったらよいサービス

(複数回答) (%)

	山口県内	山口県外	中国
中国語での就職支援	30	23	24
筆記試験の練習	15	35	16
山口県で就職すると、奨学金がもらえる制度	28	26	26
起業の支援	28	14	29
その他	0	2	5

・県内で就職した者の「先輩・知人の紹介」が多い理由は中国人ネットワークが確立していると思われる。

## 5. 考察

(1) 中国人留学生に日本語以外のサービスをもっと提供すべき。

(2) 留学生のネットワークを強化する支援をすべき。

(3) 山口県で就職するために、県内インターンシップの参加率を上げるための対策を検討する必要がある。

(4) 山口県で就職すると奨学金を提供すべき。

# 中国における大学院の入学選抜制度と進学志望動機について－日本を参考に

国際文化学研究科国際文化学専攻 王喆

## 1. 研究背景

近年、中国では大学卒業後に大学院に進学する者が増えている。国家教育委員会（日本の文部科学省に相当する）の調査によると、2009年から毎年10%以上のスピードで増え、2019年に大学院の入試を受けた学生は288万人を超えたとされている。21世紀に入ってから高等教育を急速に発展させ、近年の大卒の就職難とも相まって、大学院進学希望者が増える傾向にある。

日本の大学院は1886年の明治政府の『帝国大学令』の頒布に基づき、130年余りの発展経緯がある。近年の大学院教育改革等により、3つのポリシー導入や学習成果の可視化などが行われ、各大学院でどのような人物を求め、どう教育し、どのような人材として社会に輩出するのが明確になってきている。

このような中、大学院進学ブームの続く近年の中国社会の背景をふまえつつ、日本の大学院教育改革の手法も視野に入れつつ、中国大学院の入学選抜制度に焦点を当て、その課題について考察する。

## 2. 研究目的

中国の高等教育は急速に発展しているが、日本のような大学教育学会や高等教育学会はなく、また、大学院教育について論じられたものはまだ少ない。特に、入学者選抜については国の定めるところによっており、数だけでなく、質についても課題があるとされている。本研究は中国の大学院生にかかわる入学選抜制度の発展経緯を整理した上で、現在の大学院の入試に関わる政策や制度、内容や方法等について、大学院進学を希望する学生側と受け入れる大学側の双方から考察し、日本の事例も参考にしつつ、課題について明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究方法

①文献調査：中国と日本の大学院入学選抜制度と進学志望動機に関する文献考察、先行調査のまとめ

②質問紙調査：先行研究で実施された調査結果をふまえ、質問紙調査を行った。

③フォローアップ調査（面接調査）：質問紙調査の結果で出てきた課題についてさらに聞き取り調査を行った（新型コロナウイルスの影響で、中国への渡航禁止となったため、ウェブ上の調査に変更した）。

## 4. 調査結果

①質問紙調査

調査期間：2020年8月－9月

調査対象：中国山東省にある五つの大学（曲阜師範大学、青島大学、山東大学、山東師範大学、済南大学）に在学している90名の大学院生。

調査内容：進学志望動機（自己評価、研究計画書、学会発表など）や入学選抜制度に関する意見（情報入手、1次試験や2次試験の内容・公平性など）等、主として4項目からなる40の質問項目について尋ねた。

表1 先行調査結果と本研究の調査結果の比較

区分	先行研究で行われている質問	共通点	新たに分かった点
基本属性	性別、学年、出身大学（学部）、学部での成績、専攻	○ 陳（2014）、陳（2016）の調査では、文系の学生を対象とし、残りの柳（2003）、孟（2010）、楊（2011）は文系と理系の学生を対象に調査を行った。	● 研究テーマを決めるには、他人の助言が必要。 ● 自己評価を高め、自信をつけることが必要。 ● 批判力や自分で考える力を育成することが必要。 ● 学会や学内での発表はほとんどなく、学会や学内に参加する機会も少ないため、それを増やす必要がある。
進学志望動機	大学院を選択する理由、進学理由、専攻を選ぶ理由、卒業後就職先	○ 地理的な位置（都会）、大学の知名度である。 ○ 良い就職先を見つけるため、就職したくない等である。 ○ 卒業後の就職先については、大手企業、教師または公務員が多い。	● 就職難・就職したくない、就職のプレッシャーについて考えたくないに動機が変化している。 ● 博士課程に進学し、研究者になりたい者は少ない。 ● 実践的能力を身につけたい。 ● 人間関係やネットワークを作りたい。
情報入手	学校ランキング、専攻ランキング、教授情報、学生募集人員情報、過去の合格ライン、過去の合格率、近年の就職状況、入試内容、奨学金情報、学費情報など	○ 教授の研究情報、修士生の就職状況、過去の合格率などの情報が入手しにくい。	● 研究テーマを考える参考資料として、大学院の研究内容や研究プロジェクトの概要を公開する必要がある。 ● 専攻の内容を調べずに進学する状況を改善する必要がある。
入学選抜制度	科目の難度、試験内容の難しさ、1次試験合格ライン、2次試験の人材選抜の有効性、公平性、面接試験の内容と審査	○ 面接試験について、研究への興味、研究力に関する可能性、個人的な素質という三つの面を審査すべきである。 ○ 1次試験、2次試験の公正性について疑問を感じている者が多い。	● 試験内容の中に思考力に関する内容を入れる必要がある。 ● 1次試験合格ラインについて「まあまあ」というように、不合理さを感じる人が少なくなっている。 ● 2次試験の公平性についても、「まあまあ」と思う人が多く、有効性もあるという人が多くなっている。 ● 大学院生数やゼミ生数が多いので、学生の質が低くなっているとも感じている。 ● 他国の大学院についてあまり知らないが、日本については最もよく知られている。

## ②フォローアップ調査（面接調査）

調査期間：2020年11月

調査対象：中国山東省にある曲阜師範大学,青島大学,済南大学に在学している5名の大学院生と曲阜師範大学の3名の教授。

調査内容：質問紙調査の調査結果をベースにした質問について聞き取りを行った。

調査結果：アンケート調査結果にフォローアップ調査結果を重ねて考察した。

表2 アンケート調査とフォローアップインタビュー調査の比較 ○学生,●大学院教員

	アンケート調査 (学生)	インタビュー調査 (教員と学生)
基本属性	○研究テーマを決めるには,他人の助言が必要。 ○自己評価を高め,自信をつけることが必要。 ○批判力や自分で考える力を育成することが必要。 ○学会や学内での発表はほとんどなく,学会や学内に参加する機会も少ないため,増やす必要がある。	○●学部では卒論研究や研究課題がない場合もあり,進学希望も就職難によるものだから,研究とは何かかわからない学生が多いのは仕方ない。(学生,教員) ○●大学院のカリキュラムを充実し,研究意欲や研究態度を育て,学内や学会などで研究者と出会う場をつくる必要がある。(学生,教員)
進学志望動機	○就職難・就職したくない,就職のプレッシャーについて考えたくないに動機が変化している。 ○博士課程に進学し,研究者になりたい者は少ない。 ○実践的能力を身につけたい。 ○人間関係やネットワークを作りたい。	○●就職難・就職したくない,就職のプレッシャーが大きいというのは社会的背景なので,当面続く。(学生,教員) ○博士課程に進学したい学生が割と多いので,意欲をより伸ばす指導が必要。(学生) ○修了後の就職について迷っている学生もいる。就職支援やキャリアサポートを整備する必要がある。(学生)
情報入手	○研究テーマを考える参考資料として,大学院の研究内容や研究プロジェクトの概要を公開する必要がある。 ○専攻の内容を調べずに進学する状況を改善する必要がある。	○大学院の情報公開が必要。(学生) ○志望校の先輩とのつながりにより,情報をもらえる可能性が高い。(学生)
選抜制度	○1次試験の専門科目が一番難しく,英語の負担も重たい。 ○試験内容の中に思考力に関する内容を入れる必要がある。 ○合格ラインについて「まあまあ」というように,不合理さを感じる人が少なくなっている。 ○2次試験の公平性についても,「まあまあ」と思う人が多く,人材育成の選抜の有効性もあるという人が多くなっている。 ○大学院生数やゼミ生数が多いので,学生の質が低くなっているとも感じている。 ○他国の大学院についてあまり知らないが,日本については最もよく知られている。	●1次試験の内容は難しいが,しっかり勉強すれば,対応できるし,志望者が多い現状では難しくても仕方がない。試験内容の中に思考力に関する内容を入れる必要があり,日本の小論文や論述式問題などの試験内容の導入,アメリカのGRE (Graduate Record Examinations) のような試験の導入を望む。(教員) ○合格ラインについて「まあまあ」というように,不合理さを感じる人が少なくなっている。(学生) ○2次試験について「まあまあ」というように,不公平さを感じる人が少なくなっている(学生)。 ●1次試験の合格ラインと2次試験の公平性に不満を抱える学生が少ない。(教員) ○●大学院生数やゼミ生数が多いので,少数ゼミであれば,指導が良くなる。(学生,教員) ●大学院のカリキュラムを充実し,教育研究の内容や指導の質を高め,大学院生がどのような能力を身につけることを明確にする必要がある。研究計画書をもとにした面接も必要。(教員)

フォローアップインタビュー調査から今後に向けた課題や解決策が見えてきた。学生側では,大学院において実践能力を身につけ,ネットワークづくり,進路就職支援,情報公開,志望校先輩との交流などを求めている。入試については1次試験の合格ラインと2次試験の公平性や不満を抱える学生は少ないが,1次試験の専門の内容は難しく英語の勉強も負担だと考えている。大

学側（大学院教員）は主に入学選抜制度について1次試験の内容については難しくないと述べ,思考力に関する内容を入れる必要があるとしている。また2次試験には小論文を入れ,研究計画書をもとにした面接をするとよいとしている。大学院のカリキュラムを改善し,大学院生の能力を明確化する必要がある。学生も大学院教員も進学志望動機が就職難によるものである状況は続き,研究テーマが決められない現状は仕方ないと考えているが,学内の発表会や学会参加など,日本の院生の教員に学ぶところは大きいと思われる。

## 5.考察

日本の大学院入学選抜制度を参考にしつつ,これからの中国の大学院入学選抜制度の在り方についてまとめた。

表3 中国の入学選抜の課題と期待される方策案

	中国における課題	日本を参考にした対策
基本属性	①研究テーマを決めるには,時間がかかって,他人の助言が必要。 ②学会は少ない,学内発表会も少ない。 ③学生の質の問題。 ④批判力や自分で考える力を育成することが必要がある。	①入試の時に,研究計画書を提出させる。 ②大学院生に対して学会の参加や発表を促され,学内においても発表の機会を増やす。 ③思考力を問う入試問題も入れ,大学院のカリキュラム改革や育てる力を明確化する。
進学志望動機	①学術に興味を持つから大学院進学を選ぶよりも,就職難・就職したくないに動機が変化している。 ②博士課程に進学し,研究者になりたい者は少ない。 ③実践的能力を身につけたい。 ④人間関係やネットワークを作りたい。 ⑤修了後の就職について迷っている学生もいる。	①修了後の就職支援やキャリアサポートを整備する。 ②博士課程に進学したい学生の力を伸ばす指導が必要。 ③実践的能力を身につけられるカリキュラムの充実が必要。
情報入手	①研究テーマを考える参考資料として,大学院の研究内容や研究プロジェクトの概要を公開する必要がある。 ②専攻の内容を調べずに進学する状況を改善する必要がある。 ③志望校の先輩との交流を求める。	①各大学公式のホームページで過去の入試内容や修了生の就職状況などの情報を公開する。 ②大学院オープンキャンパスや説明会を開催する。 ③大学院教員のウェブサイトや研究を紹介するウェブサイトの設立。 ④教員への事前相談やオープンキャンパスでの先輩学生との交流機会をもつ。
入学選抜制度	①試験内容が暗記中心で難しく負担が多い。思考力に関する内容を入れる必要がある。 ②1次試験の合格ライン,2次試験の公平性はまあまあだと思える。 ③入試時期が長く,志望できる大学院の数が少なく,チャンスが限られている。 ④大学の自主権が小さい。 ⑤ゼミ人数が多い。 ⑥カリキュラムの充実を望む。	①思考力を問う内容や,小論文,論述式問題の導入。 ②入試時期を短くし,入試の機会と志望校の増加ができればよいが,現在の大学院入学志望者数から言えば,現状の制度は比較的良好に整備されているともいえる。 ③各大学(大学院)で工夫できる2次試験の改善策を拡大する。 ④複数指導体制を設け,3人程度の主・副教員制度で指導できるようにする。 ⑤大学院のカリキュラムを改善・充実し,教育研究の内容や指導の質を高め,大学院生がどのような能力を身につけるかを明確にするような大学院改革の研究が求められる。

日本の事例を参考に,これからますます増加が見込まれる中国の大学院入学希望者にどのように対応していくか,入学選抜制度のさらなる改革が期待される。

# 高等教育奨学金制度に関する中日比較研究

国際文化学研究科国際文化学専攻 雍啓陽

## 1. 論文構成

序章 奨学金をめぐる問題と研究枠組み

第一節 背景

第二節 研究目的、研究方法と先行研究

第三節 論文の構成

第一章 中国奨学金制度の変遷と概要

第一節 中国高等教育の規模拡大

第二節 中国高等教育料金徴収制度

第三節 中国高等教育奨学金制度の変遷

第二章 戦後の日本奨学金制度の変遷と概要

第一節 日本の高等教育の規模

第二節 日本における奨学金制度の内容と実施効果

第三節 日本学生支援機構による奨学金

第三章 中国と日本における奨学金制度の利用

第一節 中日給付型奨学金の利用状況

第二節 中日貸与型奨学金の利用状況

第四章 中国における高等教育奨学金制度の課題

第一節 先行調査について

第二節 中国大学生へのインタビュー調査

第三節 中国奨学金制度のこれから

おわりに

引用文献

付録1 中国大学生へのインタビュー調査質問項目

付録2 インタビュー調査記録

## 2. 研究の背景と意義

中国の高等教育は1990年代の拡大政策への転換を経て、マス段階に突入した。授業料の大幅増額に伴い、奨学金制度の改善と充実に取り組み、その利用者が急速に増加している。中国の奨学金政策の設計にあたっては、奨学金政策が比較的完備されたアメリカや日本のような先進国の奨学金モデルを参考に立案された。日本も、高等教育の発展に伴い、高等教育の経費が私費に依存する率が徐々に高くなった。日本において高等教育は「受益者負担」の考え方が主流だった。すなわち、高等教育の費用を基本的には家庭が負担し、それを貸与型奨学金によって補う、という政策をとってきた。

特にその設立過程で、給付奨学金から貸与奨学金へシフトするという国際的な傾向に倣うことにした。このような比較研究の蓄積が政策立案や効果検証などに有益な情報を提供できる。国際比較を通じて、今後の改善の見込みを把握することができる。この観点からすると、中国と日本は社会制度、経済、高等教育の事情が異なるものの、共に高等教育の私的負担率が高い問題があり、奨学金の教育機会均等を促進する政策意図、及び奨学金政策への期待は共通している。社会文化的背景として、家族が子どもの教育を重視し、犠牲を惜しまないと同時に、借金に対する警戒感が強いというところも似ている。ゆえに中国における、奨学金制度の実施実態について日本と比較しながら検討していくことは極めて重要な研究課題である。先行研究は、貸与と給付の区別がなされず、受給と効果の双方にわたる分析が少ない。また、経済状況と政策変更などの変化により、先行研究の課題が改善されるかを明らかにする研究意義がある。

## 3. 研究の目的

- ①中国と日本の高等教育における奨学金制度の発展を振り返り、政策制度の在り方を分析し、2010年以後の中日奨学金政策の利用状況を比較する。
- ②先行研究で行われた調査を踏まえ、中国大学生にインタビュー調査を行い、現在中国における奨学金制度の課題を明確にする。
- ③中国における奨学金制度の課題について、日本の奨学金制度や政策を参考しつつ、どのような点から改善されるべきなのかについて考察する。

## 4. 研究の方法

文献調査：①マクロ的な視点から中国と日本における給付型奨学金と貸与型奨学金政策の変遷をまとめる。  
②中国と日本における奨学金制度の利用人数、総額をまとめ、受給状況を分析する。  
面接調査：先行研究を踏まえて、インターネットで、面接調査を行う。

## 5. 調査の結果と考察

表1 調査大学生の特性

	受給状況	家庭所得月収入	専門/授業料	アルバイト状況
Aさん(女性・都市)	学校の奨学金(1200元) 学校の留学生への奨学金(10000元) 日本学生支援機構(8万円)	1万円ぐらい	文科系、年間5000元	家庭教師、飲食店や洋服店など(毎月300~400元)
Bさん(男性・都市)	学校のb類奨学金を申請したが、受けられなかった。	1.5万円~2万円	文科系、年間6000元。	チラシを配る販売員、麻薬中毒更正施設での講義(毎月1600元)
Cさん(女性・農村)	国家励志奨学金(5000元) 学校三等奨学金(600元)	5千元~6千元	理科系医学部、年間8000元	飲食店(500元) ワークスタディ(毎月400元) 家庭教師(毎月1000元)
Dさん(男性・農村)	学校の奨学金を申請したが、受けられなかった。	1.5万円ぐらい	理科系医学部、年間8000元	していない
Eさん(男性・農村)	国家助学金(2000元) 国家励志奨学金(5000元)	5千元ぐらい	文科系、年間5300元	家庭教師(月1000元)
Fさん(女性・農村)	国家助学金を申請したが、受けられなかった。	3千元ぐらい	文科系、年間8000元	家庭教師(月500~600元)
Gさん(女性・都市)	学校の奨学金(1200元) 国家助学金(2000元) 国家励志奨学金(5000元) 国家奨学金(5000元) 生源地助学贷款(6000元)	収入は不安定で、多くのは4千元、収入がない状況もある	文科系、年間5000元	家庭教師(一年生月800~1200、二三年生月1500~2000)、四年生会社実習(月4000元)
Hさん(女性・都市)	学校の奨学金を申請したが、受けられなかった。	3千元ぐらい	文科系、年間4400元	家庭教師(月800元)

表1は、中国大学生へのインタビュー調査の基本情報である。本研究で行われた調査は、中国において、中国の大学生の奨学金利用に対する認識や満足度を把握するため、2020年8月~9月に大学生を対象に行ったインタビュー調査である。本調査では調査実施中の困難から、8人の中国大学生を対象として、ウェブで半構造化面接調査を行った。本調査の調査事項は、基本情報、奨学金の受給状況、奨学金の効果、奨学金への意見という四つの面で構成した。

以下に本研究でわかったことをまとめた。

- ①学生の収入には仕送りが学生の主な収入源であり、家庭の経済状況が学生の生活に影響を与える。
- ②大学での生活支出は家計状況に大きく影響される。
- ③給付奨学金は在学中に支給され、受給者が多い。
- ④学校の給付型奨学金、国家奨学金の受給は成績を重視し、国家励志奨学金の受給の受給は成績と家計の両方を配慮するものだが、成績が最も重視されていることが分かった。国家助学金には家計状況が重視されている。
- ⑤給付奨学金の受給希望が高い。
- ⑥貸与奨学金は進学前にも在学中にも利用可能であるが、利用者が少ない。

表2 中国における奨学金制度の課題と日本における奨学金制度と政策。

	中国における課題	日本における奨学金制度と政策
給付型奨学金	①学校給付奨学金の給付金額の水準が低い。 ②学校の給付型奨学金の審査の公正が保証されていない。	①民間団体、企業からの支援 ②同窓会からの支援 ③大学で学生支援部門の設立
貸与型奨学金	①貸与型奨学金への認識不足。 ②利用者が少ない。 ③貸与型奨学金の貸与金額の水準が低い。	①「スカラシップ・アドバイザー派遣事業」の実施。 ②貸与奨学金の採用枠が大きい。 ③金額は五つの段階を設け、自由選択ができる。
その他	アルバイトの時間が長くて、給与の水準が低い。	労働条件の相談、最低賃金ポスターなどの宣伝。

そして、課題の改善策を以下のように提言した。

- ①多元的な援助資金体系を構築すべきこと。
- ②大学に支援管理機構を設立し、情報公開化、公正化をすること。
- ③奨学金に関する情報の周知を強化すること。
- ④貸与型奨学金の採用枠を拡大すること。
- ⑤貸与金額は多段階を設けること。
- ⑥アルバイト、就職などについての相談窓口を設立すべきこと。最低賃金制度の宣伝を拡大すること。

## 6. 結論

本研究は中国と日本の高等教育における奨学金制度の発展、現在の利用状況を考察し、先行研究と学生へのインタビュー調査を踏まえつつ、中国における奨学金制度の課題を挙げた。課題に対して、日本の事例を参考に改善策を考えた。

中国と日本共に、奨学金制度は学生の進学と生活に大きな影響を与える。奨学金の利用は親負担の軽減と学習の促進に役立ち、学生の生活面での効果が無視できない。こうした点からみて、奨学金制度は中国にしても日本にしても、高等教育の機会均等を実現するうえで大きな役割を果たしていると考えられる。それゆえ、奨学金制度に存在する課題が改善され、教育の機会均等が進むことを望みたい。



# 中国×日本の橋渡し 一箸で繋ぐ結婚式の記念品

国際文化学研究科 国際文化学専攻 辻本梨紗 馮薪雅

## 1. はじめに

今日、新型コロナウイルスの影響で日本と中国の結婚式場やホテルでの挙式・披露宴が延期・中止になっており、ブライダル業界の業績は悪化している。

この様な状況の中で、オンラインを使用したZOOM婚や動画配信など様々な取り組みが行われているが、その際に新郎新婦の知り合う過程を動画で見ることや直接友人たちが新郎新婦への祝福を行うことができ、結婚式の在り方が変わってきた。

私たちは新型コロナウイルスの状況下で結婚式の記念の代わりになるものや引出物の代わりに探そうと思いい、様々な商品案について検討した。



図：現在の新型コロナウイルスの影響における結婚式場の問題（辻本梨紗作成）

## 2. 日本で箸を贈る理由

筆者(辻本)の同僚のプランナーによると最近では結婚式でタオルやお皿、キッチングッズを贈るのが人気だが、最近少しずつ箸をプレゼントする事例も増えている。さらに婚礼用の箸商品を取り扱っているとお店やカタログ販売も行われている。

日本では箸は「お箸（はし）」になぞらえて、「幸せを橋（はし）渡しする」、「人と人とのご縁を繋ぐ橋（はし）」など、相手の幸せや夫婦円満を願う意味が込められている。

さらに食器やタオル等とは違い、かさ張らないことや、箸は長く使うものであるので記念品には良いとされている。



写真：日本で人気の箸の商品  
<https://www.farbemart.com/weddingmart/archives/21701>

## 3. 中国で箸を贈る理由

中国でお箸をプレゼントにする理由の一つには、「楽しみ」を願う意味がある。中国語の箸は「筷」と書き、「楽しい」意味を持つ中国語の「快乐」の「快」と同音である。また、箸は“double”の表象で「一生の幸せ」、「幸運」という願いの意味がある。

中国と言えばパンダのイメージが強く、人々はパンダを好む。家族の姓を刻印する箸も人気である。



写真：パンダの箸(左)と家族の姓の箸(右)  
出典：四川パンダ家：<https://m.tb.cn/h.48oaq3u?sm=f6a995>

## 4. 杭州の天竺箸の事例

天竺山での竹で作られる箸「天竺箸」は、中国の箸の中でも特徴がある。天竺箸は清の時代に始まる。山で伐採された竹から作られ、20を超える制作過程があり、中でも特徴的な工程は箸の形を円形にする過程や、箸に文字を刻む過程である。



写真：箸制作の工程  
出典：手人王連道<https://b23.tv/BV1Gs411s7dX>

## 5. 中国において婚礼時に贈られる箸の例



中国の喜筷 出典：<https://m.tb.cn/h.4RZdy4K?sm=0b3b9c>(左诗雅)  
<https://m.tb.cn/h.4RZWeYS?sm=45a6f0>(天竺山官方企业店)

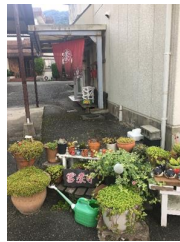
上記の4枚の写真は今日婚礼時多く使用される箸である。左写真の箸は「一屋」、「兩人」、「三餐」、「四季」が刻まれる。中央写真はマホガニー材で作る女性用の箸で、鳳の尾が刻まれている。右上部の写真は幸福の「福」が刻み、右下は天竺箸である。

## 6. 大内塗について

私たちが注目した「大内塗」は、一般的に大内時代に作られた漆製品のことを指してよばれているが、大内塗りの起源は明らかではない。ただ、大内氏の時代や江戸時代には山口で大内塗りの漆器が制作されていたと伝えられており、『李朝実録』や『皇明実録』によれば、大内氏の対朝鮮、対明交易の輸出品の中には漆器類がみられ、大内氏が大陸貿易を進めていく中で、刀剣・扇子・硯とともに漆製品も重要な輸出品となっていたこと、15世紀には山口で漆工芸が盛んに行われていたことが分かった。現在大内塗のワークショップもあり、身近に感じてもらうな体験活動となっている。



写真左：  
<http://gouchibunka.jp/study/machidukuri/01.html>  
写真右：中村民芸社、辻本撮影



## 7. 今回提案する大内塗箸①

大内氏が対明交易で漆器を輸出していたこともあり、大内塗に注目した。ふるさと伝承センター（富田氏）をお願いして大内塗の箸にパンダの絵を描いてもらう予定だったが、漆塗りには3週間以上かかり、箸が細いためパンダの絵付けは難しいとだった(案は写真下)。

そこで案②として、中村民芸社様に新しい商品、特に婚礼向けの商品開発の依頼をした。ほかの工房では結婚式のプレゼント用の箸をレーザーで名入れなどをするとところもあるそうなので、婚礼商品として可能性があると思いを提案を行った。



図：今回提案したパンダの箸(作成者：憑)

## 8. 今回提案した大内塗箸②

中村民芸社にて販売している箸を活用した。販売しているシンプルな箸の上にイヤリング用の大内塗の人形をつけ、作成を行った。現存している商品をコラボレーションすることで高付加価値が付き、一生に一回の結婚式の記念品になると考えた。

さらに、インターネット中心に手作り箸の販売もあるので、大内塗とのコラボレーションの可能性もある。中村民芸社（中村氏）によると、箸の木は他県から取り寄せて絵付けをしているので持ち込みでも対応は可能であるとのことだった。将来的には県産木の利用も検討が必要である。

手作りの商品はブライダル業界において人気がある。近年は時計や感謝状を新郎新婦が作成して親にプレゼントすることも流行している。世界に一つだけ、二人の共同作業としてさらに家族が繋がるということで人気である。



写真：今回作成した大内人形付き箸(辻本撮影)

## 8. 結果と今後の課題

今回新型コロナウイルスの影響で、イベントの開催等、思うようにできないことも多かった。しかし、友人や家族の繋がりをプレゼントという形で考えることで、地域資源の活用について工夫することができた。

また中村氏は「遠方に離れている方へのプレゼントとしてマスクと大内塗の商品を販売したら、買ってくれる人がいた。」と言われており、今置かれている状況下で工夫をすれば売上げに繋がることも分かった。

値段の設定や販売場所は今回設定していないが、引出物の相場は親族5,000円・友人3,000円、販売場所は結婚式場やブライダルカウンターが考えられる。

最終的には中国の伝統的な柄や箸の上に家族の姓を入れるなど、箸の異文化間コラボ提案や大内塗を使用した婚礼商品の製作等に発展させたいと考えている。

# 「結び」を用いた地域のお守り開発

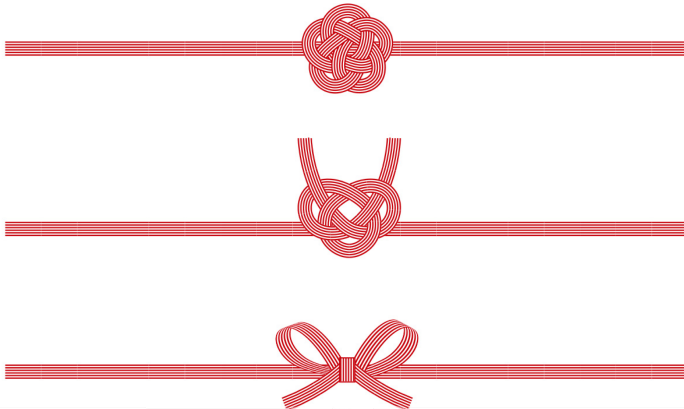
国際文化科学研究科 国際文化学専攻 全美思 山本成美

## 1.はじめに

2020年は世界中がウイルスの脅威によって新たな生活のあり方を余儀なくされてしまった。そんな中、日本に住み、山口県で生活している私たちに「文化コーディネート」という形で何ができるか考えた。そこで、山口県での当たり前暮らし、地域の恵みに感謝し、人々の心の拠り所となる、そんな商品の開発を目指した。「結び」をキーワードに、今も昔も人々を結び、厄を除ける意味を持つ「水引き」と、水引の起源でもある「中国結び」を活かし、山口県の明るい未来を願うお守りを提案する。

## 2.日本の結び「水引」

日本の代表的な結びは水引である。飛鳥時代、隋国に渡った遣隋使小野妹子が日本に帰る際、答礼使が持っていた宮廷への贈り物に帰途海路の平穩無事を祈願した紅白の麻紐が結ばれていた。それを日本へ持ち帰ったのが始まりとされている。水引には主に封印、魔除、人を結びつける意味や慶弔の意味を持ち、表す意味によって結び方や色が異なる。慶事には主に「梅結び」「あわじ結び」「蝶結び（花結び）」「結び切り」などが用いられ、その本数は5本がスタンダードとされている。色は赤白、金銀、金赤である。また、水引は和紙をこよりにし、水のりを引いて固めたもので、「水（のり）を引く」ということからその名がついたといわれている。



(上) 梅結び (中) あわじ結び (下) 蝶結び

## 3. 中国の結び「中国結び」

中国では古くから紐を結んで作ったものを送ることで、祝福を伝える習慣がある。その代表的なものが中国結びで、贈り物だけではなく飾り物としても使われ、縁起の良い象徴とされてきた。水引はこの中国結びが日本で発展したものとされている。素材の起源を辿れば麻紐だが、現在はナイロン製の物まで様々である。中国結びも結び方によって異なる意味を持つ。例えば吉祥結びは相手の幸福や平安・健康を祈る意味を持っており、双銭結びは蓄財や厄払いの意味を持っている。

## 4. 水引と中国結びの用途

先に述べたように、中国でも日本でも結びは幸福や魔除けの意味を持っている。水引は、主に贈答品や封筒に付けて使われることが多いが、中国結びは家・店・車内に吊るしたり、携帯ストラップ等として使われることが多い。

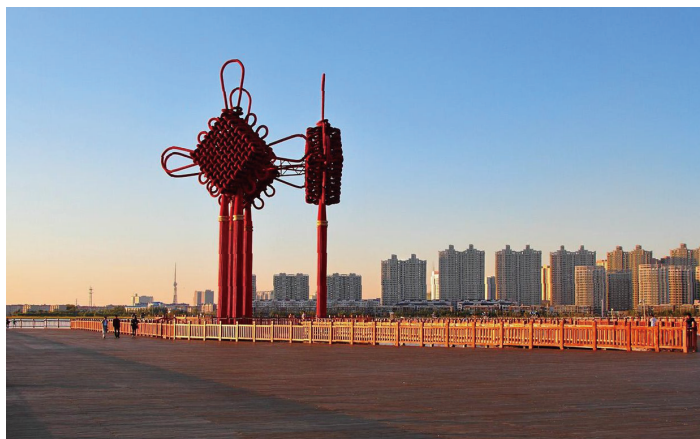


(左) 祝儀袋にあしらわれる水引結び (出典: <https://magazine.tr.mufg.jp/90090>)

(右) ルームミラーに吊るした中国結びストラップ (出典: <https://site.china.cn/xianglian/3665874541.html>)

人と車の安全な移動を願って、中国結びを車のルームミラーに吊るしたり、家庭の幸福を願ってリビングや部屋のドアに飾ったりする。この際にトイレやソファの後ろの壁に吊るさないように注意する必要があるようだ。トイレは汚れた場所である為、またソファの後ろの壁に吊るしたら財運が下がっていく可能性がある。リビングに飾る場合は明るいところに飾ったほうが良く、明るいところに飾ると自分に悪影響を与える人が遠ざかるといわれている。このように、中国結びを飾ることで幸運を呼び込み厄払いをすることができる。

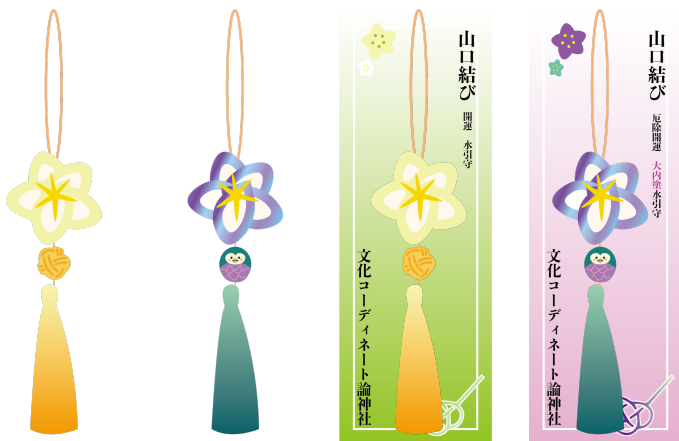
また、中国黒竜江省大慶市の三永湖の棧橋には永遠の平安や幸せを願って中国結びをモチーフとしたオブジェが建てられている。世界で最も高い水上の中国結びとしてギネス世界記録にも認定された。これほどまでに中国結びは縁起の良いものとされている。



中国結びをモチーフにした銅製のオブジェ (出典: <https://zhuanlan.zhihu.com/p/25925215>)

## 4. 山口の結びお守り

結びに関する調査を踏まえ、結びを用いた山口県のお守りを開発しようと考えた。きっかけとしては、現在も私たちの生活に大きく影響し続けている新型コロナウイルスの存在である。長い自粛期間に不安な気持ちを抱えていた人々も多いのではないかと思う。そこで、山口県に暮らす人々の心の拠り所になるような明るいアイテムは作れないか、と考え始めた。要素としては、主に中国結びの用途である、飾ることもでき、持ち運びができる形状であること。そして、山口県らしいモチーフを選ぶことだ。この度は県花である夏蜜柑の花と、大内塗りのアマビエ人形をモチーフとすることにした。



デザイン画とパッケージングイメージ

基本の形は同じにし、2色展開とした。水引の梅結びを応用して制作する夏蜜柑の花をメインのモチーフとした。オレンジ色のお守りには夏蜜柑の実をイメージした水引のあわじ玉結びをデザインした。中国結びにはよく「順調」の意味を持つ「穂子」と呼ばれるタッセルが用いられる。「山口県の明るい未来を願う」気持ちを込めたデザインにしている。ブルーのお守りには、「厄を払い幸福を招く」という思いを込めた。こちらは山口県の伝統工芸である大内塗りのアマビエ人形を用いるデザインとした。この度用いたアマビエ人形は中村民芸社様に制作して頂いた。また、古熊神社



(左2枚) 制作したお守り (右) 古熊神社七夕まつりのフライヤー様の協力で、七夕まつりの際にオレンジ色のお守りを祈願ののち初穂料1500円で授与所に置いていただくこととなった。

## 5. 結果と今後の課題

七夕まつりでは1体受けられた方がいた。短い期間ではあったが、興味を持ってくださる方がいたという結果に今後の可能性を感じた。今後の展望・課題としては、さらに山口県オリジナルなものにしていくことで付加価値を付けられるのではないかと考えた。水引の原材料である和紙に山口市の地域資源である徳地和紙を利用するなど、材料まで県産のものを使用出来ると面白いのではないかと思う。また、自身で水引細工に取り組んだ経験から、ワークショップの開催や、制作の担い手を地域で育成することで持続的な活動になり、山口県で愛される文化へとなっていこう。